

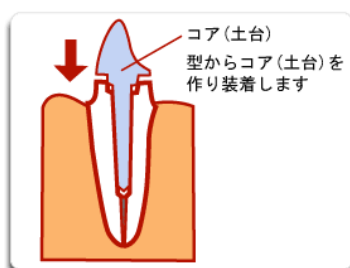
と思います。

ただ、このような現状を生み出したのは、大学を乱立した国や教育者の方にも責任があるんですよ。ちなみに、僕が大学に入学した昭和六十年の全国の大学生数は185万人。昨年度は…何と285万人。少子化の現代ですよ！大学に行くことの意味すらよく分からない状況です。当然これからつぶれていく大学も多くありそうです。

これからの日本を担っていく若者たちの教育や就職、もっとみんなまで考えていく必要がありますよね。

コア

歯の神経をとることは決してお勧めできませんが、残念がらそうせざる



るをえないことがあります。そうすると、神経の入っていた空洞からアプローチして歯の中を清潔にし、最終的には薬を充填させて処置は終わります。ここから歯の形に戻す作業が始まります。

神経の処置をする時、むし歯が小さく、ごく一部しか穴を開けないで処置をしたときはその穴をプラスチックでふさぐだけで終わるのですが、多くの場合は「差し歯」を作るようになります。差し歯は根の上に直接作るものではなく、土台(コア)を入れるその上にかぶせていくものなのです。さて、このコアの形、イラストで見てください。歯の根の中に足を伸ばし、しっかりと把持して

いるのが分かります。これをセメントで合着し、その上から歯の形をした物を入れていくのです。

ただ欠点もあります。イラストは前歯なのですが、しっかりしていて、引き抜かれる力に弱いんです。芯が直線的に入っているだけなので。もちろん簡単に取れる設計ではないのですが、キャラメルなどを食べていた時に差し歯が抜けるケースがあります。また、芯がしっかり入ったとしても、噛み合わせなどがうまく調整されていないと歯の根そのものが割れるケースもあります(結構多い)。

現在、全世界的にこの構造で差し歯は作られているのですが、決してベストな構造とはいえないのです。あくまでも代替的な構造です。やっぱり自分の歯には勝てませんね。